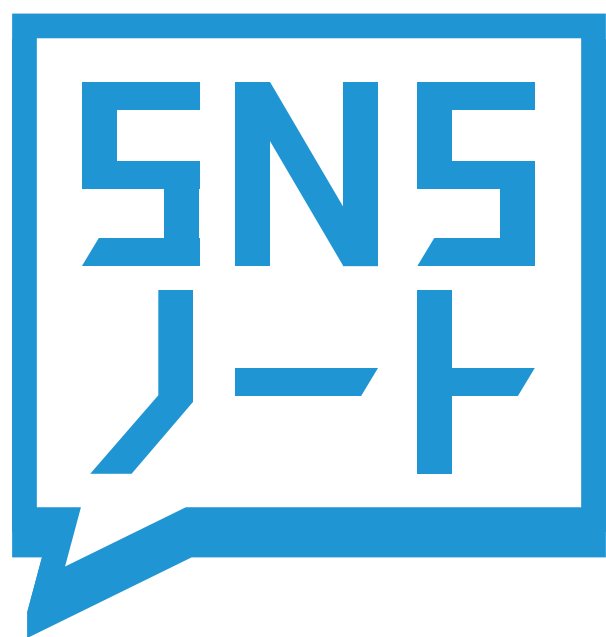




ながさき

保護者用



長崎県教育委員会





現在のネットに関するトラブルは、大きく以下のように分類することができます。

1 悪口・いじり



グループトークでのいじりや無視、短文の意味の取り違いによるケンカ



主に **C**

2 不適切情報の発信



悪ふざけの写真やデマの書き込みなどの SNS での発信による炎上



主に **C**

3 不適切サイトの閲覧



性的描写や暴力表現など青少年にふさわしくないサイトを見て、過度な影響を受ける



主に **A** と **B**

4 著作権の侵害



無許可の映像や音楽のアップロードや、違法と知りながらの音楽や映像のダウンロード



主に **A** と **B**

5 知らない人との出会い



SNS で知らない人から会うことを求められたり（誘い出し）、自分の画像を送ることを求められる



主に **A** と **B**

6 不正なアプリのインストール



不正なアプリのインストールによる個人情報の流出や遠隔操作による被害



主に **A** と **B**

7 高額課金



たくさんのお金を使って、ゲームのアイテムなどを購入してしまう



主に **A**

8 長時間利用



ゲームや動画、SNS の使い過ぎで体をこわす



主に **A**

① 子どもと一緒に、起きやすいと思うトラブルにチェックを付けながら話し合ってみましょう。

② トラブルに巻き込まれないための対策を考えてみましょう。
大きく 3 つの対策が重要です。

- A** 家庭でのルールづくり P3へ
- B** フィルタリングやアプリの設定 P5へ
- C** 3 つの視点での「コミュニケーションのトレーニング」 P6へ



スマートフォンを持つと、多くの人とコミュニケーションを取ることができます。会ったことがない人とのSNS上のやり取りについて、どのようにルールを定めればよいのか、お子様と話し合ってみましょう。

普段会っている友達	SNS で知り合った人
SNS だけでやり取りをする	SNS だけでやり取りをする
実際に会う	実際に会う

1 お子様と話し合ってみましょう

ネットやゲームを1日に使ってもよい時間は何時間か。

30分

1時間

1時間半

2時間

3時間

1日のネットの終了時刻は、何時までか。

19時

20時

21時

22時

23時

ネットにアップしてはいけない写真は何か。（複数選択可）

友達の後ろ姿
の写真

自分が飼っている
ペットの写真

自分が食べた
料理の写真

遊びに行った場所
(風景)の写真

友達顔をスタンプ
で隠した写真

メッセージをやり取りしてよい相手は誰か。（複数選択可）

家族

同じ学校の友達

違う学校の友達

SNS上の友達

誰でも

2 家庭用ルールを定めたら

家庭用ルールが決まったら、ルールとして意識するために、次のことを忘れずに行いましょう。

- ルールを書いて掲示する
- 成長に応じてルールを見直す

3 ルールには例外がつきもの

ルールには例外がつきものです。次のことを、お子様と話し合ってみましょう。

休日や友達と遊ぶ時は、何時間まで使ってよいか。

家族で決めた終了時刻を過ぎてもメッセージを送ってくる友達がいる。どうやってやめてもらうか。

ゲームやSNSに夢中になって終了時間を忘れてしまう。忘れないためにはどうすればよいか。

相手からいろいろなメッセージが届いた。どうやって気持ちを落ち着かせるか。



家庭のルール

1

2

3

4

5



フィルタリングについて

犯罪・トラブルに巻き込まれないため、フィルタリングを設定することが大切です。

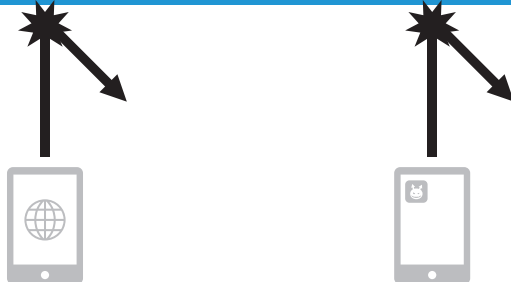
WEB サイトにアクセス させない機能

子どもが見ることがふさわしくない情報にアクセスさせない。

使用を認めていないアプリ を起動させない機能

子どもがインストールしたアプリを許可無く使用させない。

フィルタリング



平成29年2月に、携帯電話事業者が提供するスマートフォン等のフィルタリングサービスのアプリアイコンが、統一されました。

Android			iOS		
WEB	無線LAN	アプリ	WEB	無線LAN	アプリ
あんしんフィルター for (キャリア名、ブランド名)					iOS 機能制限



携帯電話会社の販売店に行き、最適なフィルタリングを設定してもらったり、相談したりしましょう。

子どものスマホの
フィルタリング、
ちゃんと設定できて
いるか不安





1 悪口・いじり



相手の
「イヤなこと」を
しないようにしましょう

↑ というルールや指導
で大丈夫？

「イヤなこと」の感覚が人によってズレやすく、ネットの特性によってよりズレが大きくなります。

3つの視点からその内容をみてみましょう。

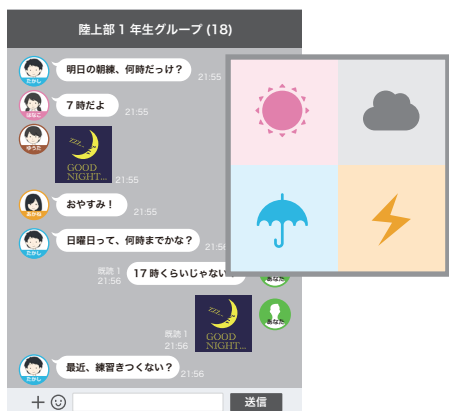


1 感覚のズレ

人によって「イヤだな」と感じる言葉には違いがあります。自分にとってイヤな言葉が、友達のイヤな言葉と同じとは限りません。

2 ネットの特性

普段、「まじめだね」という言葉を判断する時には、顔の表情やシチュエーション、トーンなどから、それが良い言葉なのか悪い言葉なのかを判断しています。しかし、それが文字によるコミュニケーションの場合には、感情が伝わりにくく、それが良い言葉なのか悪い言葉なのかを判断するのが難しく、誤解が生じやすくなります。



3 「リスクの見積り」によるズレ

子どもたちは、「何が危険か」はわかっているのですが、「どのくらい危険か」というリスクの見積りがズレやすいため、「このくらいは大丈夫だろう」という気持ちでいたのに、トラブルになってしまったということがよくあります。

情報モラル =

日常モラル

×

ネットの特性

×

想像力・判断力

memo

[illegible]



「SNSノート・ながさき」

長崎県教育委員会

平成31年2月

編集・発行 長崎県教育庁児童生徒支援室

所在地 長崎県長崎市尾上町3番1号

電話 095-894-3339

平成30年度情報モラル教育教材開発検討会議委員

長崎大学教育学部 准教授 倉田 伸

長崎県立大学情報システム学部 教授 穴田 啓晃

長崎県警察本部警務部 係長 道添 弘貴

長崎県PTA連合会 顧問 松崎 真二

長崎県立佐世保南高等学校育友会 会長 喜多 整吾

長崎市教育委員会学校教育部 教育管理官 高坂 英晃

長崎県教育庁児童生徒支援室 室長 本村 公秀

ワーキングチーム

長崎県教育庁義務教育課 指導主事 作元 浩二

長崎県教育庁高校教育課 指導主事 岩國 峰明

長崎県教育庁特別支援教育課 指導主事 前田 憲吾

長崎県教育庁生涯学習課 係長 山崎 幸則

長崎県教育センター総務企画課 主任指導主事 東原 宏章

長崎県教育センター教育支援研修課 係長 浦川 千草

制作 長崎県教育委員会

LINE株式会社

静岡大学教育学部 准教授 塩田 真吾

アラサキデザインスタジオ
